

I 学校の概要

アクティブ・ラーニング研究推進モデル校事業 綾川町立滝宮小学校

◆児童生徒数及び教員数

○児童生徒数

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	特別支援	全校
3学級 69名	2学級 51名	2学級 56名	2学級 59名	2学級 54名	2学級 56名	2学級 8名	15学級 353名

○教員数 24名

◆学校の特徴

本校は、綾川町の中心部に位置し、古くから教育に熱心な地域である。昨今の地域の開発により校区には新しい住宅地が広がり、子どもの教育・しつけに関する家庭の方針にも多様化が見られ、児童が、基本的な生活習慣や学習習慣を確実に身に付けられる教育環境にあるとは言い難い。

本校児童は、学習に興味をもち、真面目に学習に取り組んでいるものの、平成29年度までの県学習状況調査における学年別の正答率が県平均を上回ったのは1学年のみで、学年によっては県平均を大きく下回り、全体として、正答率が低い傾向にあった。この実態をふまえ、教員一人一人が授業改善に取り組んだ結果、昨年度は国語、社会、理科で県平均を上回る正答率を得ており、学力は向上傾向にあるといえる。しかし、日常の学びの様子を見ると、学力が確実に定着しているとは言えない実態である。また、授業の様子を見ると、自分の考えをもち、伝えることはできるが、互いの意見をじっくりと聞き、思考を深めたり広げたりする段階には至っていない。

II 研究主題等

研究主題

自らを見つめ主体的に心身の健康づくりに取り組む子どもの育成
—豊かなつながりを通して—

◆研究主題設定の理由

本校の教育目標は、「よく遊び、よく学び、よく働く子どもの育成 —つながり、分かち合い、自立を育む—」である。この教育目標と前述の児童の実態を受け、一昨年度より学力の向上をめざしてアクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善に取り組み、今その成果が現れ始めている。

今後も児童が意欲をもって主体的に学び、自己実現しながら活力ある生活を送るためには、「生きる力」の土台となる心身の健康を保持することが肝心である。そこで、自らの力で健やかな身体を養い、意欲や気力といった精神面の充実を図ることができる資質・能力を備えた児童の育成をめざしてこの研究主題を設定した。

なお、サブタイトルの「豊かなつながり」とは、これまで実践の中で重視してきた友達や教師、家族や地

域の人と「かかわり」、「つながる」こと、学んだことを友達と「分かち合い」、他の学習や自分の生活に生かすことである。

◆研究内容及び方法

先にも述べたように「主体的・対話的で深い学び」の実現に向かうには、児童一人一人の心と体が元気であることが不可欠である。また、児童が周囲の人々と良好な関係を結び、安心して自己を表出することができる環境づくりも重視したいことである。そこで、「主体的・対話的で深い学び」を支えるものとして、まず、基本的な生活習慣を身に付け、お互いを尊重しながらよりよい学校生活を送ろうとする活力ある児童の育成をめざすことにした。

本校は、香小研学校保健部会の研究指定を受け、平成30年度を1年次として、学校保健を中心に据え、体育科や学級活動における保健学習に重点を置いて、児童が課題を自らの問題として捉え、主体的に解決していく学習過程を重視しながら研究実践を進めてきた。本年度は、保健学習だけではなく、各教科や総合的な学習の時間などに場を広げて、これまでのアクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善を踏まえた実践を行い、能動的に学ぼうとする児童の育成をめざそうと考えた。授業改善と並行して、健康づくり・体力づくりや縦割り班活動等の中でお互いの思いや考えを伝え合う活動を行うことで、児童が自分を取り巻く人々とつながり、お互いを尊重しながら、心身ともに健康で心穏やかに落ち着いて生活できる環境づくりをめざした。

(1) 研究内容

- ① 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向かう児童の育成
 - ・主体的に健康づくりに取り組む子どもの育成（健康づくり・体力づくり）
 - ・基礎・基本を身に付け、進んで学習する子どもの育成（授業づくり）
 - ・自分や身の回りの人を大切にして生活しようとする子どもの育成（豊かな心を育む）
- ② 学びにおけるつながりの重視
 - ・学ぶ必要感のある課題設定（課題と学習者とのつながり）
 - ・深い学びを促す交流活動（学習場面で出会う他者とのつながり）
 - ・学習の振り返り（学んだことと生活・これからの自分とのつながり）

(2) 研究方法

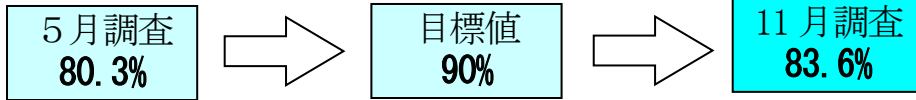
- ① 主体的・対話的で深い学び」の実現に向かう児童の育成のために
 - ・自らの健康状態や生活習慣を振り返る場、主体的に健康づくりに取り組むための場を工夫することで、継続して健康で安全な生活を実践していこうとする意欲や態度を育てる。
 - ・基礎・基本を身に付け、進んで学習するための土台づくりとして「学びのスタートライン」（学習の準備）、発表の話型、話し合いの仕方を提示し、授業において活用する。
 - ・思いや考えを伝え合う活動を通して、人々とつながり、お互いを尊重し合う心情を培うことで、自他が健やかな心で生活することのよさを実感できるようにする。
- ② 学びにおけるつながりを重視した授業づくりのために
 - ・学ぶ必要感のある課題設定を行い、課題を自分事として捉えられるように工夫する。
 - ・課題解決のために、学校、家庭、地域が協働し、児童が多様なつながりの中で学んでいける環境づくりを行う。
 - ・学習した「知識・スキル・考え方」や、できたという「達成感や自信」が、今後の学習や児童自らの生活につながる振り返りの場を設定する。

III 研究実践

◆指標設定と達成に向けた取組

1 (児童質問紙) 学級では、安心して自分の意見を言うことができますか。

指標 「①できる+②どちらかといえらばできる」の合計



指標の達成に向けた実践

学習する際に自分の考えを話したり、友達の話をつとくりと聞いたりすることは、考えを深め、広げ、新たな考えを生み出すことにつながる。児童が「自分の考えを話したい」「友達の話を知りたい」という気持ちをもつためには、友達とよい関係を築き、集団の中で自分が受け入れられていると感じていることが大切である。そこで、自尊感情を高めたり、お互いの個性にふれたり、認め合うことを重視した活動を積み重ねることで、支持的風土が培われた学級づくりができた。

(1) 自尊感情を高めるための取組 ～達成感を感じられる場づくり～

音楽自慢大会は、全校生から出場者を募って、歌や合奏などの特技を披露する年に2回の恒例行事である。出場する児童は大会に向けて練習を重ね、全力で発表した。本年度設立した音楽クラブは、休み時間や放課後に楽器の練習に励んでいる。運動会や教育文化祭、校区文化祭に出場したり、集会などで全校生の前で発表したりする場を設けた。このような場を設定することで、目的意識をもって普段から練習に励み、成果を披社称賛されたことで、頑張りぬいた自分に自信をもつことができた。

① 音楽自慢大会

6年生



② 音楽クラブ



ミニコンサートで全校生の前で発表

(2) 受容的な雰囲気づくりのための取組 ～なかまづくり～

全校での活動

ペア・たてわり活動



縦割り班で教え合って縄跳びの練習

全校生を12の縦割り班に分けて行う異学年活動。縦割り給食(2学期)、縦割り班遊び、縄跳び練習(3学期)など、ふれあいの場を多くもつことで、互いの個性を知り、折り合いを付けながらみんなできなかよく活動していこうとする意欲や態度の高まりが見られる。

学級での活動

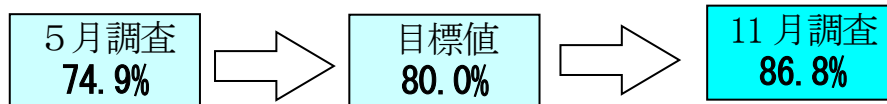
全学年において、学級全員で遊ぶ日を定期的に設け、楽しく休み時間を過ごしている。よく一緒に遊ぶ友達だけでなくいろいろな友達と遊ぶことが、友達づくりのきっかけとなって、交友関係が広がっている。また、帰りの会には、よい行いや努力している姿が見られた人（きらりさん）を発表する時間を、どの学級でも設けている。温かな目でお互いを見つめ合い、よさを認め合う和やかな学級の雰囲気作りにつながっている。友達から認められることで、自尊感情も高まり、次の善行につながっている。



学級に常設しているきらりポスト

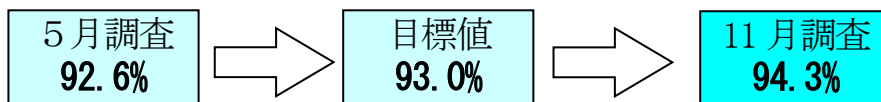
2 (児童質問紙) 授業の最後には、学習を振り返る活動をよく行っていると思いますか。

指標 「①行っている+②どちらかといえば行っている」の合計



3 (児童質問紙) 学習したことは、次の勉強やあなたの生活に役立つと思いますか。

指標 「①役立つ+②どちらかといえば役立つ」の合計



指標の達成に向けた実践

児童が主体的に学びに向かうためには、課題を自分のこととして捉えることが肝心である。児童が、学ぶ必要を感じ、教師・友達・地域の人といった学習の場で出会う人々とのつながりを通して新しい考え方に出会ったり自分の考えを深めたりできるように授業づくりを行った。授業の最後には、自分の学び方のよさや友達から学んだこと、今後に生かしたいことなど視点として学習を振り返るようにした。



まとめの後は振り返り



先の意見につなげて...

(1) 学ぶ必要感のある課題設定

学ぶ必要感のある課題設定とは？

課題

調べたい！

解決したい！

自分とのかかわり



動画の活用

普段の手洗いを客観的に振り返る

1年 学級活動

「手洗い名人になろう」



自分の問題を客観的にとらえる

アンケートの活用

3年 学級活動「ゲームやスマホと上手に付き合おう」

実態と自分の認識とのずれ



保護者と児童のアンケートの結果の比較により児童が自身の実態・課題を客観的に捉える

導入

課題と自分をつなぐ工夫を

自分事として課題を追究

2年 学級活動

「自分の歯を大切に」



課題を明確に

視覚化

健康診断の結果から奥歯にむし歯が多いことをつかみ、正しくみがく必要感をもつ

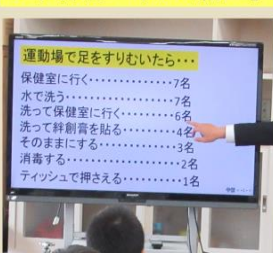
6年 算数「比とその利用」



生活の場に生かせる課題設定

「好みの濃さのカルピスをつくる」という課題から学習内容が身近な事柄とつながることを実感する

5年 保健「けがの防止」



問題を数値化

課題を明確に

児童の意識調査結果から普段の自分たちの行動振り返る場をもち、課題をつかむ

4年 理科

「動物の体のつくりと運動」



役割分担して課題追究

視覚化

自分たちの体が実際にどう動くのか確認しながら課題解決に向けて活動する

(2) 深い学びを促す交流活動

① ゲストティーチャーによる専門的な指導

5年 保健「けがの防止」



養護教諭がけがが治るメカニズムや処置の仕方を指導

正しい手当の必要性を科学的に認識する

3年 学活

「ゲームやスマホと上手につきあおう」



学校薬剤師の先生がゲーム中の体への影響を説明

ゲーム依存は予防が大切なことを知る

1年 生活科

「学校のまわりをあるいてみよう」



交通指導員さんが日頃の児童の登校の様子から気になっている点について話す。

道路歩行の課題に気付く

2年 生活科

「おいしいやさいをそだてよう」

野菜先生（農業委員さん）や技能員さんと一緒に苗を植える



さまざまな専門家と連携

経験豊富な地域の方の技と知恵に学ぶ

② 対話によって、学びを深める



- ・効果的な交流の場の設定
- ・意図的なグルーピング

効果的な交流の場の設定

4年 保健「育ちゆく体とわたし」



ポスターセッション

自分の課題解決に必要な情報を求めて活発に交流する

対話によって学びを深める

- ・意図的なグルーピング

6年 総合的な学習「弁当の日」

課題別グループ編成



お お弁当箱の大きさ
い 彩り
し 主食主菜副菜のバランス
そ それぞれの調理法
う 動かないように詰める

話し合いの目的や内容が明確になり、交流が活発になる

課題や活動に応じて、目的をはっきりさせたいことで、交流活動を取り入れることが大切。

(3) 生活やこれからの自分とつながる学習の振り返り

本校の振り返りの視点

- 1 自分の学び方・変容
- 2 友だちから学んだこと
- 3 自分の生活に生かせること
- 4 今後の学習に役立つこと

低学年の振り返り

話す
↓
物で示す
↓
教師が示した視点に沿って書く

紙コップを使った振り返り

1年 学活
「手のあらいかた てあらためいじんになろう」

できた
よくわかった
楽しかった

こまった
わからなかった
むずかしかった

分かりやすい
短時間でできる

視点を示した 言葉による振り返り

1年 算数「たしざん(2)」

1学期に提示した書き方

- ・ ~するのをがんばりました。
- ・ ~がよくわかりました。
- ・ ~ができるようになりました。
- ・ ~のところがむずかしかったです。

2学期に追加した言葉

- ・ ~がふしぎです。
- ・ ~をもっとしりたいです。
- ・ ○○さんのかんがえが…
- ・ ○○さんのはっぴょうをきいて…

中・高学年の振り返り

保健学習

学習と自分の生活をつなぐ振り返り

5年 保健 「けがの防止」

洗い残しがないかを確認するまではできていなかったの、れからは確認したいと思います。

今までは、水で洗って乾かすと思っていたけど洗ったらばんそうこうをはって治すことが分かったので手当ができるようにしたいです。

学習前の自分を振り返る

望ましい手当をする意欲

学習を生活に生かそうと
する意欲の高まり

「不思議なことや知りたいことも書いていい？」という児童の言葉から追加した。

学年に応じた振り返りを積み重ねることで、児童が振り返りの視点を獲得し、学んだことを今後の学習や友達、自身の生活と関連づけ、役立てようとするようになる。

◆特徴的な取組

1 児童の活力をひきだす取組 ～体や心をすっきりさせて、元気いっぱい～

(1) すやすやタイム

月 火 金曜日の掃除の後、10分間に、すやすやタイムという昼寝の時間を取っている。眠ることが目的ではなく、目を閉じることによって脳を休めることが狙いである。そうすることで次の活動に取り組むことができる。この10分間は、全校児童353人が物音ひとつ立てず、とても静かである。時間です。



(2) たきっ子ストレッチ

一日の始まりに、体を動かすことで体や気持ちをすっきりとさせ「今日も一日頑張ろう」という児童のやる気を引き出すために行っている。この体操は 体育委員会の児童が考え 毎朝8時になると放送で呼びかけ、全校一斉に取り組んでいる。体操は数か月ごとに作り替えている。



2 次年度の学習に見通しをもつための取組

スマイル参観

スマイル参観は、児童が自分の1学年上の学級の授業の様子を15分程度見に行く活動である。次の学年の授業を参観することで、近い将来の学習のイメージをもったり、理想的な学びの姿を確認したりすることができる。さらに、参観される側の児童も下級生に見られることで気持ちが引き締められ、学ぶ姿をほめられることで自尊心が高まる。授業を参観する側にとってもされる側にとっても有意義なものとなっている。



2年生が3年生の外国語活動を参観

IV 研究の成果と課題

1 研究成果の指標とする10の指標の結果から

① 授業の内容がどの程度分かりますか。 68.3 p → 80.8 p +12.5 p

② 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか。 61.0 p → 61.9 p +0.9 p

2 考察 (○…成果、●…課題)

- ① ○ 児童は、普段の授業で学習したことが「分かっている」と感じている。それが自信となって次の学習に向かう意欲となっているという手ごたえがある。
- 学習直後は、学習したことが「できる・分かる」ようになっているものの、時間が経つと忘れていくことがあると感じる。確実に学習内容の定着をめざす継続した取り組みが必要である。
- ② ● 学び合いの基礎となる「じっくり聞くこと」が十分といえず、児童もそれを自覚している。児童が、できた実感しながら聞く力を伸ばせる方法を探る必要がある。
- 香川の教育づくり発表会の参加者から、生活習慣を整えることや、なかまづくりなどがアクティブ・ラーニングを支えるという考えに賛同するという意見が多く寄せられた。